

2009年度 早稲田大学 法学部

日本史 解答例

I 古代・中世の貨幣経済 <標準>

問1 乾元大宝 問2 大宰府 問3 音戸瀬戸 問4 う

問5 え 問6 う 問7 あ 問8 一貫文

問4・6はどう考えるかで解答が割れる問題であった。代銭納は農民が銭を納めることと勘違いしている人が多いが、農民が納めた米を荘官や地頭が換金し、為替を利用するなどして領主に納めることである。また貫高制は、土地の大きさを銭による年貢収納額で表すしくみなので、銭納との深い関わりがあった。

II 近世の外交 <やや易>

問1 お 問2 ロシア 問3 い 問4 え 問5 え 問6 海防 問7 い・え 問8 あ
未見史料による問題だが、よく読解すれば何のことが書かれているか分かるだろう。
問6のような固有名詞とは言えない用語を早稲田では書かせることがある。教科書や問題集などでこうした言葉に慣れていないと正解できないだろう。用語暗記だけにとどまった学習では太刀打ちできない。

III 昭和戦前期の政治・外交 <易>

問1 え 問2 団琢磨 問3 井上準之助 問4 血盟団 問5 う 問6 犬養毅

問7 う 問8 う 問9 あ 問10 え 問11 い 問12 十月事件

史料の各所にヒントは隠されているので、内閣毎にできごとを丁寧に整理していた人は全問正解も十分可能な問題であった。日付すらもヒントとなるところがおもしろい。実際にはこうした問題で点差が付いただろう。

IV 近現代の経済 <やや難>

問1 あ 問2 産業合理化 問3 う 問4 お 問5 い・え 問6 切符制

問7 持株会社整理委員会 問8 う 問9 石油危機 問10 公正取引委員会

問11 え 問12 田中角栄

早稲田大学では、日中戦争勃発後の統制経済政策はよく出題される。ただし問5は、

国家総動員法の内容を詳しく理解していないと解けないため難問であった。問 8 は戦後のできごとの年代が問われている。戦後は年代・内閣ともに整理するのがやっかいだが、そこを克服せずに合格するのは難しいだろう。

講評

一時期の難しい用語を出題する法学部の特性は見られず、歴史の深い理解を必要とする問題が多かった。このため簡単な模試ではA判定が出ていたのに、ハイレベルなこの問題では通用しなかったという人も結構いるだろう。早稲田の日本史では、一問一答集などに頼った単なる用語暗記では太刀打ちできない。歴史事項の関連性を意識しながら学習することが必要である。